

教科名	地理歴史	科目名	世界史探究/自選世界史探究演習	履修学年	高校	3年	選択者	組	
単位数	6(4+2)単位	使用教科書 補助教材等		山川出版社『世界史探究 詳説世界史』 山川出版社『詳説世界史図録第5版』 浜島書店『要点整理 ゼミナール世界史探究』					
担当者	星野 真佑子								
学習目標	大学入試科目として世界史探究を選択した生徒を対象とした授業。各地域・文化圏の通史的理解を深めるとともに、歴史的なものの方や考え方を働かせ、課題を追求・解決する活動を通じて、広い視野に立ってグローバル化する国際社会に主体的に生きる資質と能力を養う。また大学受験に必要な知識と技能を身につける。 今年度は絶対王政の成立に引き続き、産業革命から現代までを扱う。夏期講習・冬期講習を実施して既習範囲の問題演習や入試問題演習を積極的に行う。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢				
評価規準	知識：各地域、各文化圏の歴史の変化に関わる諸事象について広く相互的な視野から捉えることができている。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。		世界の歴史の大きな枠組みと展開に関する事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。		世界の歴史の大きな枠組みと展開に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度及び多面的・多角的な考察や理解を通して社会人としての自覚を身に付けるとともに、多様な世界を全体として尊重する態度を身に付けている。				
各観点の評価方法等	考查における知識問題と資料読み取り等の応用問題		各単元において設定された歴史的思考を問う「問い」・「課題」 定期考查における資料読みとり等の応用問題（論述問題）		グループ協議やペアワークによる意見交換、発表など				
学期末の各観点比率	50%		30%		20%				
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	区分1	区分2
1学期	4月	第12章産業革命と環大西洋革命 第13章イギリスの優位と欧米国民国家の形成		12-1, 12-2, 12-3, 12-4 13-1, 13-2	※数字は教科書の章・節を示す	18	1学期中間 1学期末 1学期末 1学期末	第1回到達度テスト	
	5月	第14章アジア諸地域の動揺 第15章帝国主義とアジアの民族運動		13-3, 13-4 14-1, 14-2		15			
	6月	第16章第一次世界大戦と世界の変容		14-3, 15-1, 15-2, 15-3 16-1		26			
	7月	夏期講習（文化史・問題演習）		16-3					
	8月								
2学期	9月	第17章第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成		16-2, 17-1, 17-2, 17-3		24	2学期中間 2学期末 2学期末	第2回到達度テスト	
	10月	第18章冷戦と第三世界の台頭 第19章冷戦の終結と今日の世界 入試問題演習		18-1, 18-2, 18-3 19-1, 19-2		24			
	11月	冬期講習（問題演習）				24			
	12月								
3学期	1月	課題研究		個人研究と発表					
	2月								
	3月								

教科名	社会	科目名	政治経済	履修学年	高校	3年	選択者	組	
単位数	3	使用教科書 補助教材等	教科書：実教出版『最新政治・経済』						
担当者	島崎 由紀子		副教材：とうほう『政治・経済資料』 副教材：浜島書店『最新図説公共』						
学習目標	<p>・社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。</p> <p>・国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養わせる。</p>								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。		現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。			よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚し、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。			
各観点の授業内 評価方法等	考査における知識問題 資料読み取り等の応用問題 振り返りテスト		考査における資料読み取り等の応用問題 グループ協議やペアワーク 発表・レポート等			グループ協議やペアワーク 発表・レポート等			
学期末の 各観点比率(%)	60%		20%			20%			
授業計画									
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1	評価区分2
1	4	第1部 現代日本の政治・経済/第1編1章 民主政治と法・民主政治の基本原則・民主政治のしくみと課題・世界の主な政治制度					9	中間 考査	
	5	第1部 現代日本の政治・経済/第1編2章 日本国憲法の成立・日本国憲法の基本原則・自由に生きる権利①・自由に生きる権利②・平等に生きる権利・社会権と参政権・新しい人権・人権の広がりや公共の福祉・平和主義と自衛隊・日米安保体制の変化・21世紀の平和主義・日本の外交と国際社会での役割					10		
	6	第1部 現代日本の政治・経済/第1編3章 政治機構と国会・内閣と行政機能の拡大・公正な裁判と保障・地方自治と住民福祉・政党政治・選挙制度・世論と政治参加					9	期末 考査	
	7	第1部 現代日本の政治・経済/第2編1章 日本銀行の役割・財政の役割と租税・日本財政の課題					3		
	8								
2	9	第1部 現代日本の政治・経済/第2編2章 日本経済の成長と課題・中小企業と農業・公害防止と環境保全・労働問題と労働者の権利・こんにちの労働問題・社会保障の役割と課題					9	中間 考査	
	10	第2部 現代の国際政治・国際経済/第1編1章 国際社会と国際法・国際社会の変化・国際連合と国際協力・こんにちの国際政治・軍拡競争から軍縮へ					10		
	11	第2部 現代の国際政治・国際経済/第2編1章 貿易と国際収支・外国為替市場の仕組み・第二次世界大戦後の国際経済・国際経済の動向・新興国の台頭・経済のグローバル化とICTでかわる世界・発展途上国の課題と展望・地球環境問題・資源エネルギー問題・経済協力と日本の役割・					10	学年 末 考査	
	12						3		
3	1	第2部 現代の国際政治・国際経済/第3編 国際社会における諸課題の探究					5		
	2								
	3								

教科名	地歴	科目名	地理探究	履修学年	高校	3年	文系選択者	組		
単位数	3	使用教科書 補助教材等	帝国書院「新詳地理探究」 帝国書院「新詳高等地図」 とうほう「新編地理資料2025」							
担当者	今井									
学習目標	現代社会では、国民一人ひとり国際社会の一員としてさまざまな課題に対して自ら調べ・考えていくことが求められている。ここでは、世界各国の自然環境・産業生活文化等を学習し、現代世界の諸地域について自ら課題観をもって探究していくことを目標とする。									
評価方法										
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む姿勢					
評価規準	人々の生活は、その生活が営まれる地域の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。		世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる地域の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し表現している。		世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野に解決されるべき課題を主体的に探究しようとしている。					
各観点の授業内 評価方法等	定期考査、小テスト		定期考査、ミニレポート		振り返りシート グループディスカッション プレゼンテーション					
学期末の 各観点比率(%)	50%		30%		20%					
授業計画										
学期	月	学習内容・学習単元・学習到達目標等					時間数	評価区分1	評価区分2	
1	4	自然環境(地形)	大地形と小地形について成因をふくめ理解する					5	中間考査	
	5	自然環境(気候)	区分・成因について理解し、災害についても学ぶ					7		
	6	資源と産業	各地の資源の分布や利用、商工業の現状について時事問題も交え考察する					10	期末考査	
	7	交通・通信・人口・都市	特に世界各国間の経済的な結びつきについて都市の役割や形成過程をふくめ理解する					6		
	8									
2	9	生活文化・民族・宗教	グローバル化と地域の文化特性との関係性について理解を深める					8	中間考査	
	10	世界の諸地域(アジア)	地域ごとの共通性と特色・相違性について考察する					6		
	11	世界の諸地域(アフリカ・ヨーロッパ)	同上					10	学年末考査	
	12	世界の諸地域(南北アメリカ・オセアニア)	同上					7		
3	1	地域探究	自ら選択・設定した地域について解決すべき課題を設定し、探究レポートを作成する					7		
	2									
	3									

教科名	社会	科目名	日本史探究/自選日本史探究演習	履修学年	中学 高校	3年	1・3・6	組	
単位数	4 + 2	使用教科書 補助教材等	山川出版社『詳説日本史探究』						
担当者	堀内 厚平		浜島書店『新詳日本史』 授業プリント等						
学習目標	歴史と文化の展開を、各時代の国際環境や地理的な条件と関連づけて、理解できるようにする。 歴史資料を基に情報を収集し、読み取る技能を身につけて、多面的・多角的に歴史的事象を考察できるように目指す。また歴史的事象を通して自ら課題を見つけ、探究する姿勢を目指す。								
評価方法									
評価観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む姿勢			
評価規準	歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解している。また、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けようとしている。		歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目して、多面的・多角的に考察したり、課題を把握し解決を視野に入れて考察、構想したことを説明したり、議論したり、まとめたりしている。			歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度が見られる。また、多面的・多角的な考察や深い理解を通して歴史を学ぶ人間としての自覚、歴史に対する意欲、他国や他国の文化を尊重、理解することの大切さを自覚し、行動している。			
各観点の評価方法等	考查や定期的な課題における知識問題と史資料の読み取り等、応用問題の取り組みなどを評価する。		考查における初見の史資料の読み取りなど応用問題の取り組みを評価する。授業で課されたレポートを通じて歴史への考察をまとめる、レポートを発表することで評価する。			グループワークや授業外での自発的な歴史的活動を評価する。活動の振り返りシート・レポート等を通じて評価する。			
学期末の各観点比率(%)	50%		30%			20%			
授業計画									
学期	月	大項目・中項目		小項目			時間数	評価区分1	評価区分2
1 学 期	4月	第9章 幕藩体制の成立と展開		幕藩体制の成立 幕藩社会の構造 幕政の安定 経済の発展 元禄文化			33 時 間		
	5月	第10章 幕藩体制の動揺		幕政の改革 宝暦・天明の文化 幕府の衰退と近代への道 化政文化					
	6月	第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立 第13章 近代国家の展開		開国と幕末の動乱 幕府の滅亡と新政府の発足 明治維新と富国強兵 立憲国家の成立 日清・日露戦争と国際関係			26 時 間		
	7月			第一次世界大戦と日本 ワシントン体制					
	8月								
2 学 期	9月	第14章 近代の産業と生活 第15章 恐慌と第二次世界大戦		近代産業の発展 近代文化の発達 市民生活の変容と大衆文化 恐慌の時代 軍部の台頭 第二次世界大戦			40 時 間		
	10月	第16章 占領下の日本 第17章 高度成長の時代		占領と改革 冷戦の開始と講和 55年体制 経済復興から高度経済成長へ					
	11月	第18章 激動する世界と日本		経済大国への道 冷戦の終結と日本社会の変容			32 時 間		
	12月								
3 学 期	1月								
	2月								
	3月								
							計107時間 (除定期考査)		